



# 北小の風

大津町立大津北小学校  
学校だより 第2号  
令和7年5月1日(木)  
文責:校長 上田 玲子

○校訓:よく学び やさしい心と強い体 額に汗する北っ子

○学校教育目標 「夢に向かって挑戦し ともに高め合う児童の育成」

令和7年度がスタートし、一月が経ちました。授業参観やPTA総会、学級懇談会、家庭訪問等、保護者の皆様や地域の皆様に関わる行事が一段落したところです。積極的な参画やご協力に大変感謝申し上げます。

児童も新しい学級・教室・担任等新しい環境に慣れ始めてきました。落ち着いた学習環境の元、新たなことに挑戦し続けている毎日です。授業スナップや行事等随時ホームページにアップしておりますのでそちらもご覧いただけたら学校の様子が垣間見えると思います。是非覗かれてくださいね。



大津北小 HP

## 運動会に全集中！自分が大きく育つ一大イベント

いよいよ連休明けから運動会の練習が始まります。運動会に練習から本気で取り組むことで、「集団行動力、団結力、集中力、連帯する力、協力する力、規律ある態度、フェアプレーの精神、勝敗への正しい態度等」、様々な力が身に付きます。そこで培った団の団結は、その後の学校の姿に大きく影響します。

特に6年生は小学校生活最後の運動会。団の代表として、学校の代表としてリーダーシップをとり、団や学校全体をまとめ上げたり、友達や異学年に対する気配りや声かけの工夫、表現力が問われます。

他の学年も大きな声で応援したり、友達の勝敗に一喜一憂したりしながらも励ましたりともに喜び合ったりと大きく心が揺れ動き、喜びが二倍になったり悲しみが半減したりする貴重な体験が待っています。

今年度の運動会で価値ある経験を児童と共有できることを楽しみにしています。



## 集中して学習～聴く姿勢～

毎日、各クラスの授業を見ています。その中で、教師を見て、話をしっかり聞いている児童と手遊びしている児童、他の方を向いている児童など、様々な子がいます。

ではなぜ、聴く姿勢を正す必要があるのでしょうか。それは、脳に関係しています。

人の脳は、情報処理をする際に、作業台のような存在であるワーキングメモリーを使います。同時に使えるワーキングメモリーには限界があり、作業台に乗ることができない情報を、脳は処理できません。このとき「どんな情報を作業台に乗せるか」を決定づけるのが、いわゆる「意識」や「注意」です。

例えば、音楽を聞きつつ、お菓子を食いつつ、本を読みながら、人の話を聞いたとしましょう。この時点で脳は四つの作業を同時に処理することはできません。音楽に意識が向いた瞬間に活字情報は、処理できなくなります。人の意識には限界があります。先生の話聞く時に、集中できずに教科書の違うところを見たり、友達に気をとられたり、鉛筆や消しゴムが気になってさわっていたり、学習とは関係ないことをしていたりすると、意識を無駄遣いしているわけですから、授業を受けていても「受けていないことと同じ状態である」ということです。

それとは、逆に教師を注視して、教師の話が聞ける児童は、ワーキングメモリーが整理された状態ですから、高い集中力で深い思考を発揮できるというわけです。「集中して聞く力」は、学力形成の根本であるといえます。学力の高い児童、伸びる児童は、例外なく集中して聴くことができる児童です。

【集中し、前のめりで読み聞かせに目と耳を傾ける2年生】

